

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

ユカテクマヤ語 : YUCATECMAYA

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: ja 出版者: 公開日: 2012-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 八杉, 佳穂 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10502/4612 |

141 | ユカテクマヤ語

YUCATECMAYA

【主な使用地域】 メキシコのユカタン半島で、約80万の人によって話されている、30あまりあるマヤ諸語の1つ。



どんな言語？

ユカテクマヤ語は、かの有名なマヤ文明の子孫の話すマヤ諸語の1つで

す。マヤ文明では、少なくとも3世紀からマヤ文字が使われていましたが、その言語の有力な1つと考えられています。ユカテクマヤ語といたり、マヤ語といたりされることもありますが、以後単にユカテク語ということにします。

16世紀にスペイン人に征服されてまもなく、アルファベットで、伝承や神話、歴史、遺言などの文書のほか、辞書や文法書がたくさん書き残されました。18世紀の中頃までの言語は、現代話されている言語と少し異なるので、古典ユカテク語と違って区別されることがあります。

日本語では清音と濁音の対立がありますが、ユカテク語には、声門閉鎖音という喉の奥の声門を閉じてパッと解放する音があり、清音と声門閉鎖音の対立となります。声門閉鎖音は清音にアポストロフィをつけて p' b' tz' ch' k' と表されます。母音は a e i o u の5つですが、長母音と短母音の区別があります。長母音には高声調と低(下がり)声調の2つがあります。

ユカテク語は、動詞に主語や目的語を示す人称や時相辞などがついて、あたかも1語のように発音されるので、抱合語といわれることがあります。また自動詞の主語と他動詞の目的語を表す人称が同じであるため、「能格」言語といえますが、自動詞の不完全相では他動詞の主語と同

じ人称を取る「対格」型を示し、完全相と不完全相で分裂しますので、分裂能格です。また文の主部である動詞に主語や目的語などを示す文法的な要素がついて、名詞の方には文法的な印はなにもつかないので、主要部有徴言語と呼ぶこともできます。名詞句でも、修飾する方ではなく、主要部である被修飾語の方に文法的な印がきます。

● 使ってみようこんな表現！

道で出会ったとき、「どう？」とか「元気かい？」といった意味の挨拶が交わされます。b'ix a b'eel? (直訳すると「君の道はどんな具合か」とか b'a'ax ka wa'alik tech? (「何を君は言っているのか」と言います。それに 対しては、chéen b'eya' (「ただそのよう」)、ma'alob' (「悪くない」)、tooh in wóol (「私の魂はまっすぐだ」)、hach ki'imak in wóol in wílikech (「私はあなたに会えて私の魂が大変喜んでいる」)、mix b'a'al (「何もない」) などと答え、「君はどう」kux tech と聞き返します。これに対しては b'ey xan ten (「私も同じ」と答えます。

相手の名前を聞くときは、b'ix a k'aab'a と尋ね、「太郎です」tene' Taroo in k'aab'a (「私は、私の名は太郎です」) のように答えます。いろいろもの名を尋ねたくなりますが、そのときは、b'ix u ya'ala'al <caasa> ich Maya? (「マヤ語で<家>はなんと言いますか」) のように言ったり、「これはなんと言う名なの」b'ix u k'aab'a lela? と尋ねます。「どこから来たの」tu'ux a taal? と尋ねられたら、「日本から来た」tene' Jaapon in taal (「私はというと日本から来た」と答えればよいでしょう。家にはいると xéekt ab'a 「お座り」といって椅子をすすめられます。「ありがとう」dios bo'otik tech (「神が君に支かう」と言いましょう。

ユカテク語の今

いまから 30 年ほど前に初めてユカタンユカタンの村を訪ねたのですが、その当時スペイン語を話すことができる人は一部の人に限定されていました。現在では、学校教育やテレビやラジオの普及により、ほとんどの人がスペイン語を話すことができるようになりました。スペイン語を話す機会が増えると、相対的にユカテク語を話すことが少なくなるのですが、他のマヤ諸語に比べると、まだまだ活発であり、消滅の危機にあるとは考えられません。しかし日常会話にスペイン語の語彙がたくさん入っているため、親族語彙のような基本的な語彙でさえ、尋ねても、スペイン語が

出てきて、ユカテク語を思い出すのが困難な場合が増えています。

16世紀にスペイン人に征服されてまもなく、ユカテク語はアルファベットで書き記されるようになりました。その正書法は、現在使われている書き方と少しばかり異なっていますが、その多くが現在でも地名や人名に残っています。その大きな特徴は、カ行がca ci cu ce coとラテン語式に書かれることと、閉鎖音系列(p t tz ch k)の声門化した音がpp th ɔ chh kと書かれることでした。たとえば、Acancehという町がありますが、アカンケフを、スペイン語ではhは読まないの、アカンケーと読んだり、ceがkeをあらわすことを知らない人はセと読んだりしています。またtzの声門閉鎖音はcをひっくり返したɔで書かれていたのですが、19世紀にはdzと書かれるようになり、それがDzibilchaltunといった地名に残っています。アルファベットで書かれていれば読めると思ってしまいますが、このような例からわかるように、知らないと正しく読めないわけです。500年の歴史が、混乱を生んでいます。

㊦ お奨めの本 最近インターネットで検索すると、ユカテク語に関する情報がたくさん得られるようになりました。<http://isa.unc.edu/maya/resources.asp>をあけますと、これまで唯一ともいえるユカテク語の学習書 Robert Blair and Refugio Vermont-Salas, *Spoken Yucatec Maya* のテキストとCDが購入できますし、簡単なユカテク語の句を聞くことができます(<http://isa.unc.edu/maya/junpiitmaya/index.htm>)。

旅行に便利なフレーズが満載された本に Gary Bevington, *Maya for Travelers and Students* (University of Texas Press, 1995)がありますが、ユカテク語の特徴となる声調は記されていません。辞書は Victoria Bricker, Eleuterio Po'ot Yah, Ofelia Dzul de Po'ot, *A Dictionary of the Maya Language as Spoken in Hocaba, Yucatan* (University of Utah Press, 1998)が声調も記されており、簡単な文法もあって、お奨めです。

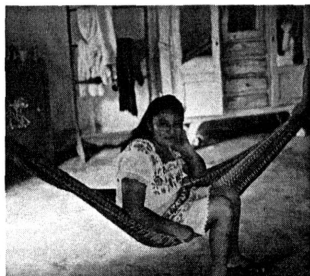
辞書で最大のお奨めは、Barrera Vásquez, Alfredo et al. 1980, *Diccionario maya: maya-español, español-maya* (Mérida, Yucatán: Ediciones Cordemex. 再版は1991で México, D. F.: Editorial Porrúa)です。16世紀以降たくさん辞書が出版されていますが、上記はそのほとんどを含んだ辞書です。ユカテクマヤ語の最初の辞書は「モトゥル辞典」で、古典ユカテク語を学ぶ人には欠かすことのできない辞書です。1929

年に最初の版ができましたが、誤植が多いにもかかわらず、マヤ研究者にとってバイブルのような役目を長い間果たしました(Martínez Hernández, 1929)。1984年にファクシミリ版ができました(René Acuña, 1984)。1995年にはコンピュータ処理をした Ramón Arzápalo Marín の大著の版、2001年にはファクシミリ版を活字におこし、注釈をつけたのがでて(René Acuña, 2001)、言語の研究ばかりでなく、マヤ文明の研究に役立っています。

ユカテク語を話す人々

メリダなどの大都会ではスペイン語が話されていますが、ユカテク語はユカタン半島のほぼどこでも聞くことができます。村での生業は、基本的に農業です。生活が楽でないので、男性の多くが町に出稼ぎに行きます。左官や配管工になったり、観光地のホテルの従業員になって、休みには村に帰るとい生活をする人が多いようです。

ユカタン人は、低地の暑いところに住む人だからか、開放的で、穏やかで親切な人が多いようです。30年ほど前初めてユカタンの小さな村に入ったのですが、見知らぬ私に対して、すぐ椅子を出して「座りなさい」と言って受け入れてくれたことを思い出します。その家族を数年前20年ぶりに訪れたとき、家を建て替えていました。ユカタンの家は、伝統的に屋根はシュロ葺きで楕円形をした一部屋作りですが、それをブロック壁の四角形に変え、屋根はトタンにしていました。どうして涼しく快適なシュロ葺きを守らないのかと思いますが、材料の取得が難しくなっているようです。トタン屋根は、日が照れば暑くて、雨が降ればうるさいばかりなのに、どうもモダンだと思われ、競ってそれに替える傾向がどこの村でも続いています。家を新しく造り替えたのだから、当然トイレもつくっていると思ったのですが、トイレは庭のどこでもできるというのでしょうか。世界が均一化されているなかで、まったくその気がないのに驚きました。



ユカテク人の女性